2015年（平成27年）
10月14日
Elderly Press Newspaper
エルダリープレス ニュースペーパー
（毎週水曜日発行）
第369号

週刊 高齢者住宅新聞

（株）高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15 TEL.03-3543-6852（編集部）
http://koureisha-jutaku.com 発行人 西岡一紀 年間購読料 21,600円（送料込・税込）

株式会社
IT
医療・
ITインフラ整
お問い合わせ
TEL.03-3514-7565

介護者へ声かけ・見守り

堺市 レスパイト事業強化

堺市は今年度から介護者のレスパイト（休息）をサポートする「お節介やさかいプロジェクト」を開始した。介護の基本的な知識を身に付けた「さかいお節介士」を養成し、介護者への声かけや見守りなどを行う。同市では2012年度からレスパイト事業も手掛けている。

TOPICS トピックス

堺市健康福祉局
長寿社会部 介護保険課
三井節子課長補佐

「『さかいお節介士』とは介護の基本的な知識や介護者支援について学ぶとともに、身近にいる介護者への声かけや見守りなど、ちょっとした手助けをする応援者」。

こう語るのは堺市の職員、三井節子氏。同市では2012年度からレスパイト事業に着手。「レスパイトで介護力アップ」を普及啓発するとともに、日本エルダーライフ協会代表理事の柴本美佐代氏が提唱する「お節介士」の理念を採り入れることで、レスパイト事業を推進している。

「お節介やさかいプロジェクト」推進

「さかいお節介士」の養成講座では、柴本氏が講師を務め、その役割や介護保険を利用する前の準備と利用のポイントを学べる。認知症や住まい、介護生活にかかる費用、保険外サービスなど、家族と同じ視点に立ち専門用語を使わずに世間話の延長で情報提供する。

「身近な人や顔見知りの人が声かけしたり、見守ったり役割は様々。できる事をできる範囲で取り組んでもらいたい」（三井氏）。

これまで「さかいお節介士養成講座」を3回実施。受講者は介護職員、民生委員、老人クラブ会長、家族介護者の会のメンバーなど多様で、「毎回定員の30人を超過している」という人気ぶりだ。

既に132人の「さかいお節介士」が誕生。養成講座の受講後にはお節介士同氏が勉強会を設け、切磋琢磨している。12月に4回目の養成講座を開催する。

「さかいお節介士」は、介護のことを語り合う「レスパイトを考える会」や「レスパイトカフェ」、介護者のために設けられたインターネットラジオなど市内の様々な活動に参加。

また同プロジェクトの一環として堺市役所で「さかい介護スマイルデイ」を10月24日に開催。介護する人と介護される人がモデルとなって登場するファッションショーを催す他、噺家が落語なども披露する。

「お節介士による様々な取り組みで介護される人を自発的に支えていこうという意識が徐々にだが高まっている。今後も住民が活動しやすいように行政がきっかけづくりをしていきたい」（三井氏）。

首都圏、札幌中心に展開

「定期巡回」にも積極参入

リビング
プラットフォーム
金子洋文社長

子洋文社長に事業戦略を聞いた。

——介護事業に参入したきっかけは。

「大学の卒業論文で持続可能な社会保障制度改革をテーマとした。前職の三菱商事グループでは2000年前後からヘルスケア分野への投資や運営のサポートに携ってきた。当時から様々な規制が存在する分野と認識していたが、成長マーケットのひとつとして注目。ヘルスケア分野で社会のインフラ整備に関わっていきたいと考えている。そうした経緯で2011年に起業。案件が持ち込まれた札幌で高齢者住宅の事業を開始した」

——現在運営している施設の種類や数は。

「2011年に改修型の高齢者住宅の開設を皮切りに、翌年新築の高齢者住宅を2棟開設。ここまではすべて札幌。その後、千葉県柏市・流山市、仙台市でも展開。その間、有料老人ホーム、グループホームを運営する札幌の企業の承継も行った。現在運営している施設は介護付有料老人ホーム、住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、特別養護老人ホームなどグループ全体で17棟819室（定員数：898人）」

17棟800室超を運営

——在宅系事業にも注力している。

「訪問介護、訪問看護、居宅介護支援、定期巡回・随時対応型訪問介護看護などを展開。ホームに併設しているケースが多い。入居系から在宅系まで総合的な介護事業を手掛けている」

——定期巡回・随時対応型訪問介護看護にも積極的に取り組んでいる。

「札幌で2ヵ所、神奈川県相模原市で1ヵ所展開している。住宅型ホームやサ付き住宅の場合、定期巡回なら包括的なサービスを提供できるのが利点。もちろん地域住民へのサービス提供も欠かせない。市町村の対応ともよるが、今後も定期巡回サービスの収益性は訪問介護と比べても悪くないと言える」

——料金体系やスタッフの配置については。

「1棟あたり3階建て60室が基本モデル。月額費用は介護負担を除き10～12万円ほど。介護職員の配置は定員60人で2・5～3対1、定員40人で一人当たりの介護保険請求額は16万円程度になる計算。個別性はあるが、適切なケアプランを立てた場合、当社のケースだと介護保険限度額に対して請求額は訪問介護でも定期巡回でも平均7割以下になる。定期巡回サービスの収益性は訪問介護と比べても悪くないと言える」

——料金体系やスタッフの配置については。

「1棟あたり3階建て60室が基本モデル。月額費用は介護負担を除き10～12万円ほど。介護職員の配置は定員60人で2・5～3対1、定員40人でグループホームを開設する。その他、いくつか承継案件の運営を検討している」

——今後の事業計画は。

「現在、特養を除く入居者の要介護度は平均2・0～2・5。中重度のニーズが高まることを考えれば、医療機関との連携が益々欠かせなくなる」

「札幌を中心に障害者向けにグループホーム・就労継続支援・居宅介護・重度訪問介護などの事業も展開。また相模原で認可保育園の運営を開始した。総合的な福祉事業の展開を図っていきたい」

▲昨年、モ
イブラ

未来の福祉を担う人材の育成を目指します
【信頼の実績】
【農家の母講座の全講資